

100年間、数学者の間で証明できなかった「ポアンカレ予想」が、ロシアのグレゴリ・ペレリマン博士によって2002年に数学的に証明されました。

ポアンカレ(フランス)は、レオナルドダヴィンチやニュートンと並ぶ3人の知の巨人と呼ばれ、直感的に言えば「どんな掛け方をされた輪ゴムも無理なく外せ、手の上にある一つの物体は、滑らかに球に変形できる」という主張で、地球を含む宇宙全域の形を解明しようとした理論です。私には、何が何やら理解できないことですが、このポアンカレ予想を証明する数学者の思考原理に興味を持ちました。NHK特集で、このポアンカレ予想の証明をしようとした学者と実際に証明してフィールズ賞(ノーベル賞以上に権威があり、4年に1度最高の数学者に贈られる賞)を受賞した天才・奇人数学者「グレゴリ・ペレリマン博士」のことを放映していました(2007年10月22日、NHK)。

ポアンカレ予想を証明するプロセスは、私にとって流通業界におけるメカニズムを解明する際に参考になりました。その内容は次の通りです。

ポアンカレ予想の証明は、不可視世界の分野である。

ポアンカレ予想の社会は、地球を含む宇宙全域の話であり、人類誰もが見えない世界(不可視世界)の解明です。我々が見えている世界(可視世界)でも、そのメカニズムはなかなか解明できないのが常ですが、ニュートンやアインシュタイン等の偉人は数学で、見たことのない世界のメカニズムを解明しています。

すなわち、社会科学は、人それぞれの考え方が異なり、その中でよりベターな理論が高い評価を受けますが、自然科学は、絶対的な1つのみの答を求める理論であり、それを不可視世界の中で証明するという至難の業の領域です。流通業においても、潜在的な不可視ニーズを売り手が見抜くことが必要です。

ポアンカレ予想の証明は、理論の一貫性による解明である。

不可視世界(だれも行つたことも見たこともない世界)を、証明するためには、数学という客観的な手法で、かつ、あらゆる面から一貫性を持った理論でなければならず、理論の飛躍があれば証明にはなりません。ポアンカレ予想においても、98%までは証明できても、残り2%に理論の飛躍があり、証明できないことがほとんどでした。不可視世界の中での証明ですので、本当の正しい事を実証するためには、どのような場合でも、理論が一貫し、論理の飛躍がないことが必要となります。流通業においても、客観的視点から成功のメカニズムを構築することが必要です。

ポアンカレ予想の証明は、これまでの数学者が挑んできた手法とは違う攻め方で行つた。

ポアンカレ予想は、数学の位相幾何学上の現象であり、多くの数学者は、位相幾何学を基にした数学上の証明でした。何十人あるいは何百人が挑戦しましたが、ポアンカレ予想を証明できませんでした。そこで、グレゴリ・ペレリマン博士は、位相幾何学より古い数学理論である微分幾何学と、数学とは関係のない物理学を駆使してポアンカレ予想を証明しました。すなわち、視点を変え、これまでとは違う攻め方でポアンカレ予想を証明しようとした手法が解明につながったのです。流通業においても、競争相手とは異なる発想で独自の分野を構築することが必要です。

ポアンカレ予想の証明に当たっては、万華鏡の仕組みを活用した。

万華鏡を覗くと何万もの模様が見えますが、基になる形は必ずしも多いとはかぎりません。万華鏡は数限られた形を基として、それを組み合わせ複合させることにより無限に模様を作り出します。我々はそれを見て「きれいだなぁ」と思っているわけです。ポアンカレ予想の証明においても、我々が見えている多種・多様な形は、実は8つの形の複合によるものであることを解明し、この8つの形を基に、ポアンカレ予想を証明したわけです。我々が見ている社会、経済、経営上の現象も、実は、万華鏡と同じように、数少ない現象の複合化によってできあがっており、根は同じ現象がたくさんあります。流通業においても、多種多様な成功事例や失敗事例がありますが、多くの場合、根は同じ課題です。

ポアンカレ予想は4次元世界以上の次元の思考から証明された。

我々は3次元世界の中に住んでいます。3次元世界から2次元世界を見ると、2次元世界のメカニズムがよく見えますが、3次元世界は4次元世界からでないといふ十分に見えません。数学上は10次元世界まで可能だそうです。次元を変えて物事を見ることがポアンカレ予想の証明を可能にしました。流通業においても、同じ業態や業種を分析・視察するのではなく、異なる分野の成功事例を参考にすると効果が出る 경우가多くあります。

我々、流通業の成功のメカニズムの解明において、ポアンカレ予想の証明の思考原理は大いに役に立ちます。

(株)ダイナミックマーケティング社³
代 表 六 車 秀 之